

HX832D

取扱説明書

- お買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- お使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みください。
- お読みになった後は、この取扱説明書を大切に保管してください。
- 本機は、国内仕様です。国外では使用できません。

3 ページより

11 ページより

17 ページより

23 ページより

31 ページより

日本マランツ株式会社

ご使用まえに


「安全上のご注意」では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。


△危険 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。


△警告 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

△注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

 △記号は注意・危険を促す内容があることを告げるものです。
左図の場合は、感電注意が描かれています。

 ⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。
左図の場合は、分解禁止が描かれています。

 ●記号は使用者の行為を指示することを告げるものです。
左図の場合は、一般的な指示が描かれています。

安全上のご注意

- ご使用前に必ずこの「安全上のご注意」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになったあとは必ず保存してください。

△危険

●使える電池は、単3形のアルカリ電池・マンガン電池・別売のリチウムイオンバッテリーパックCNB832です。これ以外の電池は、使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●濡れた手で電池の取り付け・取り外しを行わないでください。

●リチウムイオンバッテリーパックCNB832を充電するときは、当社指定の充電器を使用してください。これ以外の充電器は、使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。

●使用済の電池は火中に投げ入れないでください。爆発して火災・やけどの原因となります。

●電池の端子はショートさせないでください。発熱によりやけどの原因となります。電池を単品で持ち歩くとショートさせる原因となります。

●端子を金属でショートさせないでください。火災・故障の原因となります。



⚠ 警告

- 自動車等の運転中はこの機器を操作しないでください。交通事故の原因となります。
- 病院内や航空機内など、使用が禁止されていた場所では、この機器の電源を切ってください。医療機器や電子機器の動作に支障をきたす恐れがあります。



- 万一、煙が出ている、変なにおいや音をするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切ってください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。



- 万一異物がこの機器の内部に入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

- 万一、この機器を落としたり、破損した場合は、まず機器本体の電源スイッチを切って販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。

- この機器を分解・改造しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- 電池は分解しないでください。電池を漏液・発熱・破裂させる原因となります。

⚠ 警告

- 水につけないでください。火災・感電・故障の原因となります。



- この機器の上や近くに水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。



- 本機の分解およびアンテナの付け替え等は、電波法で禁止されています。絶対に行わないでください。改造した機器を使用した場合は、電波法により罰せられますので、ご注意ください。



- 本機は、電波法第4条「技術基準適合証明を受けた無線局」です。本機の背面に貼られている証明ラベルは絶対にはがさないでください。証明ラベルをはがすと、技術基準適合機としての効力を失い使用できなくなります。

ii

⚠ 注意

- 機器で指定されていない電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。



- 電池の極性表示（プラスとマイナスの向き）を確認してから機器内に挿入してください。間違えますと電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多い場所、高温になる場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

- 不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。



- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けが・故障の原因となることがあります。

- お手入れの際は安全のため電源を切ってください。

- この機器を長期間ご使用にならないときは、電池を本機から取り外してください。電池の破裂、液洩れにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。



⚠ 注意

- 乳幼児の手の届かないところで、電池は使用・保管を行ってください。



iii

もくじ

本書について	2	こんなときには	23
はじめに	3	話しを聞かれたくないとき	24
ご確認ください	4	話しがとぎれるとき	24
HXR32Dについて	5	バッテリーセーブを解除するとき	25
ベルトクリップの取り付けかた	5	間違っ動作するのを防ぎたいとき	25
正しくお使いいただくために	6	キー操作音（ピー音）を消したいとき	26
電池を入れるには	7	表示部に照明をつけるとき	26
使ってみましょう	8	催着時の通話をモニターするには	27
モードについて	9	買った始めの状態に戻したいとき	28
		表示部が分からないとき	28
お使いになる前の準備	11	外部電源ジャックについて	29
各部の名前	12	催信・個別催信モードを便利に使うには	29
音量を調整するには	12	チャンネルを拡張するには	30
ディップスイッチを設定するには	13		
チャンネルを合わせるには	13	ご参考に	31
モードを設定するには	14	故障とお考えになる前に	32
自分のid番号を設定するには	15	オプション（別売品）の紹介	34
連続して通話を行うには	15	アフターサービスについて	34
		定格	35
各モードの使いかた	17		
催信モードを使うには	18		
個別催信モードを使うには	19		
一斉呼び出しを行うには	20		
単信モードを使うには	21		
グループ単信モードを使うには	21		
お話しするときの注意	22		

本書について

本書の説明は、工場より出荷され、お客さまが初めて電源を入れたときの状態より説明を行っています。

本書では、参照していただくページを「**D**」を使って表しています。

例えば、「**D 10**」と書かれている場合は、10ページを参照ページとしてご覧ください。

はじめに

ご確認ください	4
HX832Dについて	5
ベルトクリップの取り付け方	5
正しくお使いいただくために	6
電池を入れるには	7
使ってみましょう	8
モードについて	9

ご確認ください

- 保証書には、お買い上げ店名および日付けが記入されていますか。
- 付属品は、そろっていますか。

HX832D 本体

乾電池ケース
(HX832Dに付属)

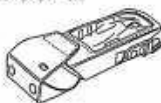
ベルトクリップ



ハンドストラップ



チャリングケース



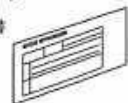
急速充電器 CSA832 (取扱説明書付き)

リチウムイオンバッテリーパック
CNB832 (取扱説明書付き)

取扱説明書



保証書



(株)スタンダード全国営業所一覧

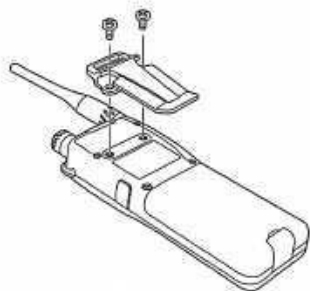


HX832Dについて

- 本機は、総務省の技術基準に適合した、特定小電力トランシーバーです。
- 免許および申請手続きはいっさい不要です。お買い上げになったその日から使えます。
- 送信出力が10mW設定時では、通話ができる距離は、スキー場や浜辺で約1~2Km、市街地などで約100~200mです。送信出力が1mW設定時は、通話ができる距離は、10mW設定時の6~7割になります。
- 通話時の通話時間は、送信出力が10mW設定時では、3分間です。送信出力が1mW設定時は、無制限です。
- この製品は、お使いになる状況に合わせて、いろいろな通話の方法が選べます。この通話の方法のことを、本書では「モード」と呼びます。「モード」の設定については、14ページをご覧ください。
- アフターサービスは、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードのサービスセンター、営業所にお問い合わせください。
- この製品は、国内仕様です。海外では使用できません。

ベルトクリップの取り付けかた

下図のように付属のビスでベルトクリップと本機を固定します。



△注意

ベルトクリップは必ず付属のビスで取り付けてください。付属されていない以外のビスを使用すると、本機の内蔵部を破損したり、ベルトクリップが脱落して故障や事故の原因となることがあります。

5

正しくお使いいただくために



無線機などの使用が禁止されている場所では、電源を切ってください。



この製品は、防沫構造(JIS保護等級4防まつ形)になっています。しかし、水や湿気が多い所では、ご使用にならないでください。また水等がかかった場合は乾いた布等で、すぐに水分を試き取ってください。



この製品の分解や改造は、法律により禁止されています。



クルマのダッシュボードの上等高温になる場所に放置しないでください。



保冷庫の中など、低温の場所では使用しないでください。



振動やホコリの多い場所では使用しないでください。



使える電池は、単3形のマンガン電池、アルカリ電池または付属のリチウムイオンバッテリーパックCNB832です。使い終わった電池は、火の中などに入れないでください。電池は繰り返し使えるCNB832をおすすめします。CNB832は、専用充電器CSA832で充電してください。

6

電池を入れるには



- 1 電池ケースのロックをはずす
→電池ケースが取り外せま
す。



- 2 極性(プラス・マイナス)に注
意して電池をいれる



- 3 電池ケースを閉め、ロックを
する

: 電池の残りが約20%以上です。



: 電池の残りが約20%以下です。
(点滅)

: 電池はほとんど空です。
(消灯) 電池を交換してください。

△注意

古い電池と新しい電池は混ぜて使わないでください。

使い終わった電池は、お住まいの地域で指示された方法に従って廃棄またはリサイクルしてください。

使える電池は、単3形のマンガン電池、アルカリ電池または付属のリチウムイオンバッテリーパックCNB832です。

無線機に付属のリチウムイオンバッテリーパックCNB832を取り付けたまま充電するときは、必ず無線機の電源スイッチを切ってから充電を行ってください。また、充電器は付属のCSA832をお使いください。

本機を長期間ご使用にならないときは、電池を本機から取り外してください。電池の液漏れにより、本機の故障の原因となる恐れがあります。

はじめに

使ってみましょう

電池を正しく入れます。
→7ページの手順に従って
電池を正しく入れてくだ
さい。



電源を入れます。



Mキーを押しながら、音量
ツマミを回し、適度な音量
にします。



話しをする人とチャンネル
を合わせます。



電話のように話ができま
す。通話状態になると、耳
の保護のためスピーカーか
らの音が小さくなります。



呼ばれた人は、CALL/PTT
スイッチを押すか、自動的
に接続するのを待って話し
を始めます。



CALL/PTTスイッチを押
し、相手の人の返事を待ち
ます。
CALL/PTTスイッチを押し
つづける必要はありません。



初期状態(工場出荷時)
は、受信モード(9)に
なっています。

モードについて

複信モード

話しをする人とチャンネルを合わせ、相手の人を呼び出します。通話状態になると、電話のように話しながら、相手の人の声が聞こえます。このモードでは通話中に、CALL/PTTスイッチを押す必要はありません。

個別複信モード

話しをする人にd番号とチャンネルを合わせ、相手の人を呼び出します。この時使うd番号は、話しをしたい人のd番号(⑩14)にします。通話状態になると、電話のように話しながら、相手の人の声が聞こえます。このモードでは通話中に、CALL/PTTスイッチを押す必要はありません。d番号を無線機ごとに変えることで、1チャンネルあたり最大99局の個別呼び出しができます。



単信モード

話しをする人とチャンネルを合わせ、送信・受信を交互に行います。

グループ単信モード

話しをする人とチャンネルとグループ番号を合わせ送信・受信を交互に行います。グループ番号が違っていたり、グループモードになっていない人からの送信を受け付けません。同じグループ番号に設定した人からの送信を静かに待つことができます。



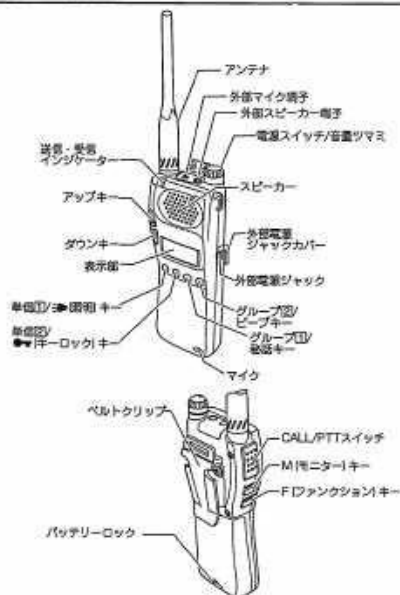
単信方式と複信方式の切り換えは、無線機のディップスイッチの設定により行います。ディップスイッチは、バッテリーケースを外した、無線機内部にあります。各モードの設定方法は、「モードを設定するには(⑩14)」または各モードの使用方を説明している箇所(⑩18~21)をご覧ください。

お使いになる前の準備

各部の名前	12
音量を調整するには	12
ディップスイッチを設定するには	13
チャンネルを合わせるには	13
モードを設定するには	14
自分の番号を設定するには	15
連続して通話を行うには	15

11

各部の名前



音量を調整するには



1 電源/音量ツマミを回し、電源を入れます。



2 スピーカーから音が出ていないことを確かめます。

3 Mキーを押します。
→「ザー」という音がスピーカーより出ます。



4 この音を目安に、音量ツマミを回し、音量を調整します。

△注意

音量は、大きくならないようにしてください。
特に、本体のスピーカーを使っていた後に、ヘッドセットなどを使うときは音量を下げてください。突然、受信したときに、耳を痛める恐れがあります。

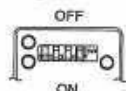
ディップスイッチを設定するには

ディップスイッチ



1 電池ケースを本体から外す
→ディップスイッチが見えます。

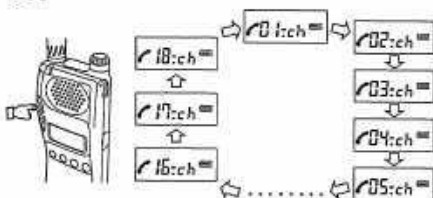
2 ディップスイッチの設定を行う
→ディップスイッチの設定は下記の表をご覧ください。
→工場出荷時は、ディップスイッチ1番はON、ディップスイッチ2番～4番は、OFFになっています。



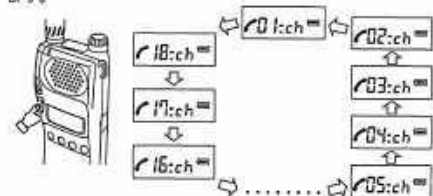
ディップスイッチの番号	OFF (オフ)	ON (オン)
1	単信使用	複信使用
2	複信使用時に自動で着信、接続を行う	複信使用時に手動で着信、接続を行う
3	送信出力10mW	送信出力1mW
4	複信モニターオフ	複信モニターオン

チャンネルを合わせるには

▲(アップ)キーを1回押すごとに、上のチャンネルに変わります。



▼(ダウン)キーを1回押すごとに、下のチャンネルに変わります。



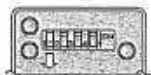
13

お使いになる前の準備

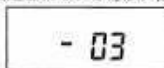
モードを設定するには

複信モード

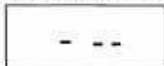
ディップスイッチの1番をONにします(13)。



自分のId番号が01～99に設定されている時は、個別複信モードになります。



自分のId番号が--に設定されている時は、複信モードになります。



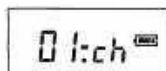
工場出荷時は、自分のId番号は、--に設定されています。

単信モード、グループ単信モードを行う前にディップスイッチの1番をOFFにします(13)。



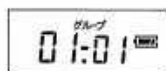
単信モード

単信キーを押します。



グループ単信モード

グループキーを押します。



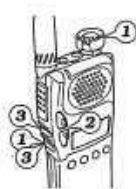
各モードの説明は、「モードについて(9)」または各モードの使用方法を説明している箇所(18～21)をご覧ください。

相手の人とモードが違っていると、お話しはできません。モードは必ず合わせてください。

複信モードが選ばれているときは、モードキーを押してもモードは変わりません。複信モード以外にするときは、ディップスイッチの設定を変えてください。

14

自分のId番号を設定するには



1 複信モード(⑤14)時に、Fキーを押しながら電源を入れる。

2 ▲または▼キーを押し、自分のId番号を設定します。

→ --- : 複信モード

(例) - - -

→ 01~99 : 個別複信モード

(例) - 03

3 Fキーを押しながらMキーを押し、Id番号を決定する

→ Id番号が決定されるとピー音がでます。

→一度電源を切り、再度入れ直してください。

連続して通話を行うには

工場出荷時、送信出力は10mWになっています。この場合、複信およびグループ複信での通話は3分間で切れます。送信出力を1mWに変更すると、これらの通話を連続して行なえます。



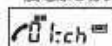
1 ディップスイッチの3番をONにする

→ 複信およびグループ複信にて、連続通話が可能になります。また、送信出力は、1mWになります。

→ 工場出荷時、ディップスイッチの3番はOFFになっています。この時の送信出力は10mWです。

→ 工場出荷時での複信およびグループ複信の通話は3分間までです。

2 一度電源を切り、再度入れ直す



→ 「連続」が表示されます。



● 送信出力を1mWに設定すると、10mWの設定よりも電波の到達距離が短くなります。

● 単信モードおよびグループ単信モードのときは、ディップスイッチの3番をONにしても、送信出力は1mWになりません。

● 送信出力を10mWに設定すると、単信時は30秒、複信時では3分を越えると自動的に送信を停止します。(⑤22)

15

各モードの使いかた

複信モードを使うには	18
個別複信モードを使うには	19
一斉呼び出しを行うには	20
単信モードを使うには	21
グループ単信モードを使うには	21
お話しするときの注意	22

17

各モードの使いかた

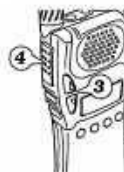
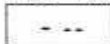
複信モードを使うには

話しをする相手の人とチャンネルを合わせ、呼び出します。通話状態になると、電話のように話しながら、相手の人の声が聞こえます。

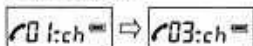


- ディップスイッチを設定する
→ディップスイッチの1番は、ONにしてください。
→ディップスイッチの2番は、OFFのとき、自動着信・接続します。ONのとき、手動着信・接続します。

- 自分のId番号を—にする (D 15)
→次回からは、電源を入れるだけで複信モードになります。



- ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる



- 呼び出すとき
CALL/PTTスイッチを押し
→「ブルブルル」という音がします。
→相手の人の返事を持ちます。



- 呼び出されたとき
「ブルブルル」という音がする
→自動着信・接続を選んでいるときは、そのまま通話状態になります。
→手動着信・接続を選んでいるときは、CALL/PTTスイッチを押します。

- 通話中は
→無線機のスピーカーを耳にあてたまま、電話のようにお話しください。
→CALL/PTTスイッチを押す必要はありません。

- CALL/PTTスイッチを押し、通話を終了する

- 通話時間が3分を越えると2秒以上回線が切れた後自動的に回線を再接続します。
- 電波が2秒を越えてとぎれたときは、通話が終了します。
- 呼び出し音が7回鳴っても返事がないときは、電波は届いているが相手の人が返事をしなかったときです。
- 3人以上で使うときは、個別複信モードでのId番号をそれぞれ異なるコードにしてください。
- 複信モードは当社の特定小電力無線機HX822のかんたん通話と互換性があります。HX822と一緒に使いになるときは、HX822の無線機の取扱説明書をご覧ください。

18

個別複信モードを使うには

話しをする相手の人のチャンネルとId番号に合わせ、呼び出します。通話状態になると、電話のように話しながら、相手の人の声が聞こえます。



- ディップスイッチを設定する
→ディップスイッチの1番は、ONにしてください。
→ディップスイッチの2番は、OFFのとき、自動着信・接続します。ONのとき、手動着信・接続します。
- 自分のId番号を01~99にする (D 15)
→個別複信モードになります。
→次回からは、電源を入れるだけで個別複信モードになります。

- 03

- ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる

01:07 → 04:07

- Fキーを押しながら、▲または▼キーを押し、相手の人のId番号に合わせる

04:07 → 04:15

→工場出荷時、相手の人のId番号は「01」になっています。



- 呼び出すとき
CALL/PTTスイッチを押す
→「ブルブル」という音がします。
→相手の人の返事を待ちます。



- 呼び出されたとき
「ブルブル」という音がする
→自動着信・接続を選んでいるときは、そのまま通話状態になります。
→手動着信・接続を選んでいるときは、CALL/PTTスイッチを押します。

- 通話中は
→無線機のスピーカーを耳にあてたまま、電話のようにお話しください。
→CALL/PTTスイッチを押す必要はありません。



- CALL/PTTスイッチを押し、通話を終了する

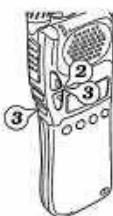
- 通話時間が3分間を越えると2秒以上回線が切れた後自動的に再呼び出しをします。
- 電波が2秒を越えてとどれたときは、通話が終了します。
- 呼び出し中、および通話中は相手のId番号が表示されます。このId番号で誰との通話かわかります。
- 呼び出し音が7回鳴っても返事がないときは、電波が強いですが、相手の人が返事しなかったときです。
- 3人以上で使う場合に自動着信・接続を選んだときは、自分のId番号をそれぞれ異なる番号にしてください。自動着信・接続を選び、Id番号が同じときは、うまく接続できないことがあります。
- 個別複信モードは当社の特定小電力無線機HX822の個別通話と互換性があります。HX822から呼び出された場合、呼び出し中にHX822で設定されたId番号が点滅します。HX822と一緒にお使いになるときは、HX822の無線機の取扱説明書をご覧ください。

19

一斉呼び出しを行うには

個別複信モードで、同じチャンネルを使っている人を一斉に呼び出すことができます。ただし、話しができるのは呼び出した側の人だけです。呼ばれた側の人は話しを聞くだけです。

- 個別複信モードにする (D 19)



- ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる

01:07 → 04:07

- Fキーを押しながら、▲または▼キーを押し、通常相手の人を呼ぶId番号を「RL」にする

04:07 → 04:RL

→工場出荷時、Id番号は「01」になっています。



- CALL/PTTスイッチを押し、送信状態にする
→マイクに向かって話しをします。



- 受信状態に戻るには、CALL/PTTスイッチを押す

- 呼び出した側の人のみ話しができます。呼ばれた側の人は話しを聞くだけです。返事はできません。
- 送信出力が10mWに設定されている時は、送信時間が3分を越えると送信は自動的に停止します。送信出力が1mWに設定されている時は、連続して送信できます。
- 送信が停止した後、送信を2秒以上中断し、自動的に再度送信を行います。
- 一斉呼び出しは当社の特定小電力無線機HX822の一斉呼び出しと互換性があります。HX822と一緒にお使いになるときは、HX822の無線機の取扱説明書をご覧ください。

単信モードを使うには

話しをする相手の人とチャンネルを合わせ、送信・受信を交互に行います。

◆ディスプレイの1番は、OFFにしてください。

1 単信キー①または単信キー②を押す

01:ch

2 ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる

01:ch → 03:ch

3 CALL/PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話す
→送信状態になります。

4 CALL/PTTスイッチを放す
→受信状態になります。
→相手の人が送信すると、スピーカーより声が聞こえます。

- 単信キー①および単信キー②は、前回使った状態（チャンネル）が、それぞれ記憶されています。
- 1回の送信時間は、30秒までです。30秒を越えると送信は自動的に止まります。
- 自動的に送信が停止した後も、CALL/PTTスイッチを押し続けていると、2秒後に再度送信を開始します。
- 相手の人以外の声で通話がじゅきされるときは、モードをグループ単信モードなどに変わってください。
- 単信モードは他の特定小電力無線機と互換性があります。他の業務用特定小電力無線機と一緒にお使いになるときは、それぞれの無線機の取扱説明書をご覧ください。

グループ単信モードを使うには

話しをする人とチャンネルとグループ番号を合わせ送信・受信を交互に行います。

◆ディスプレイの1番は、OFFにしてください。

1 グループキー①またはグループキー②を押す

01:00

2 ▲または▼キーを押し、相手の人にチャンネルを合わせる

3 Fキーを押しながら、▲または▼キーを押して、相手の人にグループ番号を合わせる

02:00 → 02:03

→グループ番号は01～50まで50種類あります。

4 CALL/PTTスイッチを押しながら、マイクに向かって話す
→送信状態になります。

5 CALL/PTTスイッチを放す
→受信状態になります。
→相手の人が送信すると、スピーカーより声が聞こえます。

- グループキー①およびグループキー②は、前回使った状態（チャンネルおよびグループ）が、それぞれ記憶されています。
- 1回の送信時間は、30秒までです。30秒を越えると送信は自動的に止まります。
- 自動的に送信が停止した後も、CALL/PTTスイッチを押し続けていると、2秒後に再度送信を開始します。
- グループ番号が違っていたり、グループモードになっていない人からの送信を受けても、音声は出ません。
- グループ単信モードは当社の特定小電力無線機HX809およびHX811のグループ機能と互換性があります。HX809/HX811と一緒にお使いになるときは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

21

お話しするときの注意

カウントダウン表示について

この無線機には、通話時間の残り時間を表示する「カウントダウン表示」機能があります。送信出力1mWの複信モードおよび個別複信モード以外のモードでは、残り時間が30秒からカウントダウンを始めます。単信モード及びグループ単信モードでは5秒前からカウントダウンを始めます。カウントダウンが始まると「ビッピビッ」という送信タイムアウト警告音が出ます。また、表示部には残り時間（秒数）が表示されます。

01:30

残り時間表示

送信時間について

（対象：単信モード、グループ単信モード）

送信時間とは、一度CALL/PTTスイッチを押してから放すまでの時間です。CALL/PTTスイッチを放している時間が2秒以下の時は、放している時間も送信時間に含まれます。送信時間は30秒までです。

通話時間について

（対象：複信モード、個別複信モード（但し、送信出力10mW））
通話時間とは、二人で交互に話しを行い、その話しが終わるまでの時間です。
通話時間は3分までです。

通話時間の無制限について

送信出力が1mWに設定されている時の複信モード、個別複信モードでは、通話時間に制限はありません。

送信警告音（ブザー音）について

CALL/PTTスイッチを押したときに、「ブザー」という警告音があることがあります。これは、他の人がすでにそのチャンネルを使って通話しているときです。インジケータの緑色点灯が消えるのを待つか、チャンネルを他に変えてご使用ください。

スピーカーからの音量について

複信モードまたは個別複信モードにて、通話が始まるとスピーカーからの音が小さくなります。これは、耳を保護するための機能です。故障ではありません。

マイクと口元の距離について

単信モードやグループ単信モードをお使いの時は、マイクから口元の距離は3～5cmにしてください。マイクに口を近づけすぎると、相手の人への音声が届き取りにくくなる場合があります。

無線機どうしの距離について

無線機どうしを近づけて、お話しになると「キーン」という音がでることがあります。このようなときは、離してお使いください。

こんなときには

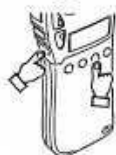
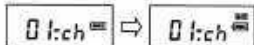
話しを聞かれたくないとき	24
話しがとぎれるとき	24
バッテリーセーブを解除するとき	25
間違っただ動作するのを防ぎたいとき	25
キー操作音（ピープ音）を消したいとき	26
表示部に説明をつけるとき	26
受信時の通話をモニターするには	27
買った始めの状態に戻したいとき	28
表示画が分からないとき	28
外国電器ジャックについて	29
複信・個別受信モードを便利に使うには	29
チャンネルを拡張するには	30

話しを聞かれたくないとき

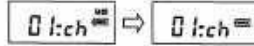
秘話機能を使い話しを聞かせないようにすることができます。



Fキーを押しながら、秘話キーを押す
→秘話機能が働きます。
→表示部に「秘話」が表示されます。



解除するには
Fキーを押しながら、秘話キーを押す
→秘話機能が解除されます。
→表示部の「秘話」が消えます。



- 秘話機能はすべてのモードで使えます。
- 話しをする相手の人も秘話機能にしていないと、話しはできません。
- 他の機種でも、秘話機能のあるものには通話を聞かれることがあります。高度な機密を必要とする通話でのご使用は、お避けください。

話しがとぎれるとき

電波の状態がよくないときに、お話しがとぎれることがあります。これをモニター機能で防ぐことができます。



Mキーを押します。
→Mキーを押している間は、モニター状態になります。雑音で話しがきけます。ただし、「ザー」という音が話しに入ることはありません。



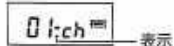
モニター状態を続けるには
1 Fキーを押しながら、Mキーを押す
→それぞれのキーを放しても、モニター状態が続きます。

2 解除するには、Mキーを押す

バッテリーセーブを解除するとき

本機は、初期状態ではバッテリーセーブ機能が働いています。バッテリーセーブ機能は、キーの操作や送信・受信がないとき自動的に消費する電流を少なくします。

- 1 表示部に「●」が表示されていることを確認する



→ 表示部に「●」が表示されていることを確認する
→ バッテリーセーブ機能が働いています。



- 2 電源を切る

- 3 ▲キーを押しながら、電源を入れる
→ 表示部に表示がでるまで、キーは押し続けてください。



- 4 表示部に「●」が表示されていないことを確認する

バッテリーセーブを使うには

- 1 電源を切る
2 ▲キーを押しながら、電源を入れる

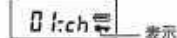
● 電池の消耗を防ぐために、バッテリーセーブはできるだけ解除しないでください。

間違っ動作するのを防ぎたいとき

間違っキーを押して、動作が変わってしまうのを防ぐための機能として、キーロック機能があります。



Fキーを押しながら、●キーを押す



→ 表示部に「●」が表示されていることを確認する
→ キーを押しても「ブツ」という音がして、キー操作が出来なくなります。
→ CALL/PTTスイッチ、MキーおよびFキーは、使えます。



キーロックを解除するには
Fキーを押しながら、●キーを押す

キー操作音(ピーブ音)を消したいとき

キーを押したときに、出る音を消すことができます。



Fキーを押しながら、ピーブキーを押す
→ キーを押してもピーブ音がでません。



解除するには
Fキーを押しながら、ピーブキーを押す

表示部に照明をつけるとき



Fキーを押します。
→ Fキーを放しても、5秒間は照明が点灯します。



照明を点灯したままにするには
1 Fキーを押しながら、Mキーを押す
→ それぞれのキーを放しても、照明は点灯したままになります。

- 2 解除するには、Fキーを押しながら、Mキーを押す

複信時の通話をモニターするには

複信モードまたは個別複信モードを使用しての通話をモニターすることができます。



- 1 通話する局(通話局)のディップスイッチを設定する
 - 1)ディップスイッチの1番及び4番をONにします。
 - 2)電源を入れ直し、モードを複信モードまたは個別複信モードにします。



- 2 モニターする局(モニター局)のディップスイッチを設定する
 - 1)ディップスイッチの1番及び2番をONにし、電源を入れ直します。

- 3 通話局は、複信モードまたは個別複信モードにて通話を行う

- 4 モニター局は、モニターしたい通話局にチャンネルを合わせる



- 5 モニター局は、Mキーを押す
 - 複信モードまたは個別複信モードで通話を行っている局どうしの通話が同時に聞こえます。

- 通話局のディップスイッチ4番がOFFになっていると、その人の相手の通話をモニターすることはできません。通話の内容を聞かれない場合は、ディップスイッチ4番をOFFしてください。
- モニター局のディップスイッチ2番が、ONになっていない時は、断線することがあります。モニター局のディップスイッチ2番は必ずONにしてください。

27

こんなときは

買った始めの状態に戻したいとき

オールリセットを行うことで、すべての設定を買った始めの状態にもどすことができます。



- 1 ディップスイッチの1番をON、2～4番をOFFにする



- 2 ▲と▼キーを押しながら、電源を入れる
 - 表示部に表示がでるまで、キーは押し続けてください。
 - 表示部は、一瞬すべて点灯します。
 - 工場から出荷した状態に戻ります。

表示部が分からないとき



- ① 複信モード、個別複信モードにおいて通話時間に制限が無いとき(送信出力1mW)に表示。
- ② グループ単信モードのときに表示。
- ③ 個別複信モードのときに表示。
- ④ 秘話機能が働いているときに表示。
- ⑤ 電池の残量を表示。
- ⑥ キーロックが働いているときに表示。
- ⑦ グループ単信モードでは、グループ番号を表示。単信モード、複信モードでは、「ch」を表示。個別複信モードでは、相手の人のIDコードを表示。一斉呼び出しでは、「R」を表示。カウントダウン時は、残りの秒数を表示。
- ⑧ バッテリーセーブが働いているときに表示。
- ⑨ チャンネルを表示。
- ⑩ 複信モード、個別複信モードのときに表示。

28

外部電源ジャックについて

本機の外部電源ジャックには、極性統一型DCジャックを採用しています。極性統一型DCプラグ採用の4.5V～6VのACアダプタが使用できます。詳しくは、(株)スタンダードのサービスセンター、営業所にお問い合わせください。



- 使用するACアダプターによっては、「ブーン」というハム音がスピーカーより出ることがありますが、故障ではありません。

外部電源ジャックから、付属のリチウムイオンバッテリーパックCNB832は、充電できません。CNB832を充電する場合は、必ず付属の急速充電器CSA832をご使用ください。

複信・個別複信モードを便利に使うには

別売品のヘッドセットCHP832またはタイピンマイクCMP832をお使いになると、さらに便利な使い方ができます。

- CHP832をお使いのとき
 
- CALLキー付きのヘッドセットCHP832やCALLキー付きのタイピンマイクCMP832を使えば、無線機をポケットに入れたままで、CHP832/CMP832のCALLキーが無線機のCALL/PTTスイッチと同じ操作ができます。複信モードまたは個別複信モードで通話が始まるとポケットに無線機を入れたままで話ができます。

- 通話中にヘッドセットは、抜き差ししないでください。誤動作の原因になります。
- ヘッドセットやタイピンマイクをご使用になるときは、それぞれの取扱説明書もよくご覧ください。
- ヘッドセットCHP832を使用するには、別売りのヘッドバンドCMB820またはヘルメットクリップCMB821が必要です。

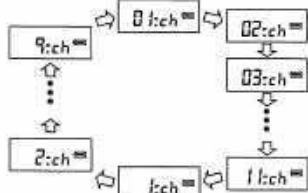
チャンネルを拡張するには

チャンネルを拡張することで、従来のチャンネルに加えレジャーチャンネルの1から9が使えるようになります。また、複信モード/個別複信モードでも1から9チャンネルが使えるようになります。

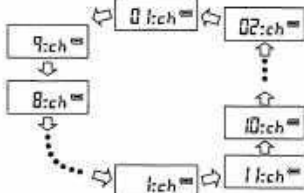


- ON/1Mキーを押しながら、電源を入れる
→スピーカーより「ピッ」と音がして電源が入り、チャンネルが拡張されたことを知らせます。

- 2 チャンネルを変えるには、▲(アップ)キーまたは▼(ダウン)キーを押す
→▲キーを1回押すごとに、上のチャンネルに変わります。



- ▼キーを1回押すごとに、下のチャンネルに変わります。



- 3 チャンネルの拡張をやめるには、一度電源を切った後で、手順1を行う
→スピーカーより「ブッ」と音がして電源が入り、チャンネルが元に戻ったことを知らせます。

- 単信モードの場合、他の特定小電力無線機(8ch無線機、11ch無線機、20ch対応無線機)と互換性があります。
- 表示される01から15が従来のチャンネルです。チャンネルを拡張することで1から9のレジャーチャンネルが使用できるようになります。
- 複信モード/個別複信モードを設定している場合は、1～9チャンネル/01～18チャンネルとなります。また、拡張チャンネル1～9では、連続通話(1mW)は、使用できません。

ご参考に



故障とお考えになる前に	32
オプション（別売品）の紹介	34
アフターサービスについて	34
定格	35

ご参考に

故障とお考えになる前に

サービスを依頼される前に、ご面倒ですが次のことをご確認ください。下記の項目をチェックしても直らない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの（株）スタンダードの営業所またはサービスセンターにご相談ください。

症状	原因	処置	参照ページ
スピーカーから「ザー」という音が出る	モニターがロックされています。	Mキーを押して、ロックを解除してください。	24
モニター状態が変わらない			
送信できない	電池が消耗しています。	電池を取りかえてください。	7
	他の人が同じチャンネルを使っています。	使い終わるのを待つか、他のチャンネルを使ってください。	22
電源が入らない	乾電池が消耗しています。	電池を取りかえてください。	7
	リチウムイオンバッテリーパックが消耗しています。	電池を取りかえてください。それでも電源が入らないときは、一度電源を切ってから10秒程度経過してから電源スイッチを入れてください。	7
	電源電圧が高く、過電圧保護機能が働いています。	電源電圧を適正にした後一度電源スイッチを切ってください。電源を切ってから10秒程度経過してから電源スイッチを入れてください。それでも電源が入らないときは、電源スイッチを切り、2〜3分経過してから電源スイッチを入れてください。	—
CALL/PTTスイッチを押すと「ブー」という音がする	他の人が同じチャンネルを使っています。	使い終わるのを待つか、他のチャンネルを使ってください。	22
スピーカーからの音量が小さくなる	モードが雑音または個別雑音に設定されています。	耳を保護するために、これらのモードではスピーカーからの音量が小さくなります。	22

症状	原因	処置	参照ページ
受信できない	電池が消耗しています。	電池を取りかえてください。	7
	モードが合っていない。	モードを相手の人に合わせてください。	9, 14
	チャンネルが合っていない。	チャンネルを相手の人に合わせてください。	13
	グループ番号が合っていない。	グループ番号を相手の人に合わせてください。	21
	音量が小さくなっている。	音量を適当な大きさに調整してください。	12
	秘密機能が働いている。	秘密機能を解除してください。	24
話しがとぎれとぎれになる	相手の人と離れ過ぎています。	距離を縮めてください。	-
	キーを押しても音が出ない	ビープ音が消されています。	Fキーを押しながら、ビープキーを押して、ビープ音が出る設定にしてください。
キーを受け付けない	キーロック機能が働いています。	Fキーを押しながら、  キーを押して、キーロック機能を解除してください。	25
照明が消えない	照明がロックされています	Fキーを押しながら、  キーを押して、照明のロック状態を解除してください。	26
設定が初期の状態に戻らなくなった		オールリセットを行ってください。	28

ご参考に

オプション（別売品）の紹介

CALL付タイピンマイク
CMP832



タイピン型マイク&イヤホン
CMP816C

複信モードでは使えません



タイピン型マイク&イヤホン
CMP815B

複信モードでは使えません



CALL付ヘッドセット
CHP832



PTT付ヘッドセット
CHP815

複信モードでは使えません



ヘッドハンド
CMB820



ヘルメットクリップ
CMB821



急速充電器
CSA832

リチウムイオンバッテリーパック
CNB832 (750mAh)

アフターサービスについて

保証について

- この製品の保証期間は1年間です。
- この製品には、保証書がついています。
- 保証書は、記入事項をよくご確認のうえ大切に保管してください。
- 保証期間内でも有料修理となることがあります。保証書をよくご確認ください。

保守サービスについて

- 保証期間経過後においても、修理が可能なものは、お客様のご要望により有料修理いたします。なお、修理内容によっては、修理費が高額になる場合もありますのでご承知願います。

故障の場合は

- 「故障とお考えになる前に」をよくお読みのうえ、もう一度故障の状況をお調べください。それでも、うまく動かないときは、お買い上げになった販売店または(株)スタンダードの各営業所、サービスセンターにご相談ください。

定格

一般仕様	
送受信周波数	400 MHz帯の47チャンネル
通信方式	単信方式、または複信方式
電波型式	F3E
発振方式	周波数シンセサイザー方式
定格電圧	3.0 V
接地方式	マイナス接地
動作温度範囲	-10°C～+50°C
寸法(高さ x 幅 x 奥行き)	122 x 42 x 21 mm
重量	145 g (単3乾電池2本使用)
アンテナ	固定式ヘリカルアンテナ

受信部	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数	第一中間周波数 -23.05 MHz 第二中間周波数 +450 kHz

受信感度	
単信時	-7dB μ 以下(12dB SINAD測定法による)
複信時	-4dB μ 以下(12dB SINAD測定法による)
スケルチ感度	-14dB μ
低周波出力	60 mW以上(8 Ω 負荷, 10%歪時)
消費電流	約20mA(バッテリーセーブ時) 約50 mA(待ち受け時)
副次的に発射する電波等の限度	4000 μ W以下

送信部	
変調方式	リアクタンス変調
送信出力	10mW/1mW
最大周波数偏移	± 2.5 kHz以下
消費電流	約70mA
不要輻射	-29 dBm以下
占有周波数帯幅	8.5kHz以内

電池交換の目安

モード名	単3アルカリ	単3マンガン	CN5832	条件
単信	50時間	23時間	30時間	送信30秒 受信30秒 待受4分
複信 送信出力: 10mW	30時間	11時間	19時間	通話3分 待受12分
複信 送信出力: 1mW	13時間	3時間	7時間	連続

この製品の規格及び外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

35

販売元：株式会社スタンダード

〒153-8645 東京都目黒区中目黒4丁目6番8号

製造元：日本マランツ株式会社

〒228-8505 神奈川県相模原市相模大野7丁目3番1号

お問い合わせは、

最寄りの株式会社スタンダード、各営業所、サービスセンターで承っております。付属の全国営業所一覧をご覧ください。